

### 千日会 (せんにちえ：如意寺本尊会)



如意寺：十一面観世音菩薩の本尊会である「千日会」は、毎年、8月9日です。今年は日曜日にあたります。

例年通り、久美浜湾では、午後7時半より「花火・灯笼流し・大文字焼き」が行われ、町にも露店が出たり、灯笼で飾られるなど、風情ある久美浜の「幽玄の火の祭典」となります。お誘い合わせお参り下さい。通常通り、寺の前まで車を乗り入れることができます。

午後7時：法要(本堂)、千日会護摩(不動堂)  
千日会護摩(千円)、祈願・供養灯笼(千円・海に流します)も是非、お申し込み下さい。  
(事前でも当日でも随時に。Fax,メールOK)



四季の山野草

### “珠山千年石の庭”が完成しました

これまで「木洩れ日の小径」として親しまれた本堂裏手の山野草の庭が今春大改修され、新たに生まれ変わりました。

歩道に敷設された敷石は、旧如意寺境内(観音山)の参道の石段として使われていたものです。山の麓の船着き場から観音山の中腹の境内へは、石段を含む約五百米の参詣道を登りました。これらの石は地元の山石や三原石によるもので、およそ千年の長きにわたって、何百万人の古の人たちの汗や思いを吸収しています。これらの石段の石にちなんで庭を「珠山千年石の庭」と名付けました。「珠山」とは観音山の別名です。今回、作業に当たられた地元の人たちの布施を示す「施主 土居浦町 講中」と彫った石碑も発見されました。また、作業中に参道脇で発見されたお大師様の石像一体を、この庭の入り口にお祀りしました。五十年前より順次行われた寺の遷移の際に置き忘れられたようです。今年も奇しくも御大師様が高野山を開創されてから千二百年目にあたり、これもご縁と言わざるを得ません。長い歴史を見つめてきた石を踏みしめつつ、木洩れ日とせせらぎの間で咲く可憐な山野草の花々をご観賞ください。



### 丹後&久美浜の夏の行事

7月18日～11月15日

「海の京都博」。京都北部各地でイベントがあります。久美浜では、この間、遊覧船が一日3回久美浜～小天橋を往復。200円バスで移動自由。「海の京都京丹後エリア：神の箱庭コンセプトツアー」(日)募集中。

◆申込先：京丹後市観光協会

■7月19日は、夕日ヶ浦海岸で大イベント。ご検索ください。

8月3日～7日

全国高校総体力ヌー大会が、門前の湾で実施。延2千人来場。

### 「花説法」の内容

健康に生きる／人生は苦だからこそ楽しく／「お陰様」とは／人とつながる生き方 などで、場合によってあらゆる話題が出ます。「寿命が延びました」、「本当に元気が出ました」などの感想を寄せていただいています。

### 夏～秋の花暦

9月	8月	7月
萩 (はぎ)	洞庭藍 (どうていあい)	岩煙草 (いわたばこ)
南蛮煙管 (なんばんえんきん)	木槿 (きぎん)	藜萱草 (あぶかんそう)
藤袴 (ふじばかま)	擬宝珠 (ぎぼし)	九蓋草 (くがいそう)
鳥兜 (とりかぶと)	吾亦紅 (われもこう)	桔梗 (ききょう)
霜柱 (しもはしら)	秋明菊 (しゅうめいぎく)	半夏生 (はんげしょう)
釣船草 (つりふねそう)	釣鐘人參 (つりがねにんじん)	睡蓮 (ずいれん)
芙蓉 (ふよう)	百日紅 (ひゃくにっぺい)	夕菅 (ゆうすげ)

など：

# すでに救われている！

～輪廻や因果応報の考え方も一理ありますが～

インドでは、仏教以前から「輪廻と業」の思想が広く根づいていました。過去世によって現世のあり方が決まり、現世の生き方によって来世が決まる。これを永遠に繰り返すという世界観です。これが初期仏教に引き継がれ、「六道輪廻」になります。すなわち、六つの世界（天・人・修羅・畜生・餓鬼・地獄）があり、生前の生き方によって次の輪廻の転生先が決まるといいます。修行によりこれらの苦しみから解脱（悟りを開く）することが仏教の目的であり、それが涅槃（安らぎの境地）です。正しいものの見方や清らかな生き方に導くために、釈尊（お釈迦様）はこのような考え方を仏教に取り入れられたのです。



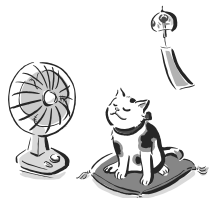
仏教ではさらに「因果応報」を唱えます。あらゆる出来事にはそれなりの原因と結果がある。よい行いをすれば必ずよい報いがあるし、その逆は逆です。しかもそれは、現世だけでなく、時間を超えて作用するので、ご先祖がかつて為した善行や悪行が子孫に影響することもありうると説きます。「業」です。逆に言えば、その原因に気づいて除去すればそこから抜け出すことも可能となります。同時に、ご先祖への感謝や供養の大切さもわかります。

しかし、悪いことが続くと、つい何でも「前世」や「悪霊」のせいにしてたり、オカルト的な考え方に走る人もいます。これは大変危険なことです。これは、仏教でいう三毒（貪・瞋・癡）の癡にあたります。癡とは、迷妄（物事の道理に暗く、実体のないものを真実のように思うこと）、すなわち正しい判断ができなかったり、他に責任転嫁をしたりすることです。人生の多くのできごとは因果関係で説明がつかますが、それだけではどうしても説明のつかないことも生じます。そういうときには、「前世の業かもしれないな」とか、「こういうこともあるんだな」と考える程度でよいのです。「あ、そうか」で終わる。あまり深入りしないことが大切です。



言い換えれば、それが「今を生きる」ということにもなります。過去への深い思い、感謝、恩を忘れないなどのことは人として大切です。しかし、どうしようもない過去や未来のことをいつまでも思い悩むのではなく、今どうするのかを考えて実行せよと、仏教は説きます。過去の邪気も未来の邪気もないのが無邪気です。心を清らかにしてまっすぐに、ものごとに向き合う。そうすれば清々しい景色が目の前に開けてきます。心が変わればすべてが変わります。解決法も見えてきます。「仏さま」の加護も増えていくにちがいません。

悩みや病気は、気づきと成長の機会でもあります。いろいろなことがあります。今、人生の真ただ中を生かさせていただいています。それだけでも、私どもは“すでに救われている”のではないのでしょうか。マイナスでなく最低限ゼロ地点にいるのです。そう考えれば、何をやってもこれからはプラスの世界となります。周りの人や仏さまに、感謝の気持ちを持って日々を過ごしたいものです。「輪廻・業」に思いを馳せながらも、「今を大切に生きる」ことが最も大切だと思われまます。（今回、「輪廻」の記事をご希望の方にお応えしました。）



ことば

- ◆ 自分ではできなくても、立派な人を応援することも立派な仕事です。
- ◆ 人生を損得で考えてはいけない。利益は結果である。
- ◆ 「なるほど、なるほど」